

実用源文学

-Practice of GENBUN II-



BloodyWorks Presents

地図から見る独ソ戦（中）

前作「実践源文学」に引き続き、第二次世界大戦の独ソ戦を劇画化した歴史群像コミックスの東部戦線シリーズの解説を試みます。

このシリーズは学研から出版されている元ドイツ国防軍情報将校パウル・カレル著の独ソ戦史本『バルバロッサ作戦』『焦土作戦』の内容を元に製作されており、一部を除き人物の台詞や場面描写もその内容に準じています。この原著は第二次大戦後に行われた膨大な元ドイツ軍将兵へのインタビューを元に執筆されたものであることもあり、極めて多視点的で実質的に『主な登場人物』となるべき人物は存在しません。

事実上これの忠実なコミカライズ版といっても過言ではない東部戦線シリーズも同様の傾向を持っている訳ですが、余りにも原著に忠実であるために著しくストーリー性・エンターテインメント性に欠いた仕上がりとなっています。特に人物の描写は極めて薄く、個々のキャラクターが立っていないというレベルを通り越して兵士の個体識別を不要なファクターとして斬って捨てているレベル。また場面描写についても同様に僅か数ページ、極端な場合は数コマで戦場が移動し、淡々と週単位で時が流れて行きます。

このため余程戦史に詳しいか、原著を横に読み進めていかない事には話の流れを把握できないという極めて難解で硬派なコミックとなっています。流石は歴史群像に連載されていただけのことはある、と言うべきかもしれませんが。

その中でも特に今回取り扱う「ブラウ作戦」は一年以上に及ぶ長い期間、しかも北方軍集団・南方軍集団という広大な戦域を取り扱っているためこの傾向が顕著で、コマとコマの間で数週間も時が流れたり（場合によっては逆行したり）戦場が100キロ以上移動したりと不親切さではシリーズ他巻の比ではありません。内容をしっかりと把握していないと容易に「時の迷子」になってしまい、なんとなく泥臭い雰囲気を感じるだけに終わることは必至といえるでしょう。

今回の解説記事では単行本の大まかなページ順を基準に独ソ戦の「ストーリ

ー」を解説し、また地図上に個々の「イベント」がいつどこで起きたのかを表記することで難解な独ソ戦記シリーズを読解する一助となることを目的としています。そのために東部戦線全体を表記した広域地図を解説に用い、「該当の戦闘が地理的・時間的にどれ位の広さを有しているか」という疑問に対応できることを目指しました。これには同時期に行われた戦闘を一まとめに表示してしまうことで、単行本中では離れたページの出来事を容易に関連付けできるという効能もあります。

また作中に適宜挿入される戦場地図（もしくは個々の戦いの解説に注力しすぎたありがちな戦史解説本）を見ていてよく思う「川と街と師団シンボルだけの略図では解説されている戦域の縮尺や地球上における位置がイメージできない」という疑問（デミヤンスク包囲戦やバルジの戦いの経過を知っていても、どの地域・範囲で行われたのかを地球儀上で示せと言われると詰まる人は多いはず）にも対応しています。

前置きが長くなりましたが、以上のような方針のもとで 1942 年の独ソ両軍の激突を眺めていくことにしましょう。

ブラウ作戦

学習研究社 RGC 歴史群像コミックス

2004 年 1 月 19 日発行

ISBN4-05-602886-9

『ブラウ作戦』は大きく三つのエピソードから構成されている。一つ目（場面構成的には三つ目）は本のタイトルどおりブラウ作戦〔総統指令第 41 号及び 45 号〕関連、つまり 1942 年後半のドイツ軍二度目の攻勢、カフカス侵攻戦とスターリングラード攻防戦である。

だがその前段階として、本巻では開戦当初に想定された作戦が一段落した 1941 年 9 月頃から 1942 年 6 月のブラウ作戦開始までにかけての北方軍集団・南方群集団の戦いがそれぞれ描かれている。これは前々巻『バルバロッサ作戦』では中央軍集団中心、前巻『タイフーン作戦』に至っては中央軍集団のみを描写という偏ったストーリー構成がなされていた反動である訳だが、とにかく本巻の半分以上はこれまで話題に登ってこなかった北方・南方軍集団のエピソード（主にソ連軍の冬季攻勢）を語ることに費やされていると言っても過言ではない。逆に言うと本巻のストーリーの同時期に中央軍集団が何をしていたかを知るためには、前々巻・前巻を読む必要があるということでもある。

本巻の流れとしては、初めに南方軍集団北翼のハリコフ地区、次に南翼ロス トフ・クリミア戦線の戦いが描かれる。次いで北方軍集団の北翼ヴォルホフ・南翼のデミヤンスクの戦いが描写されており、この後でやっとブラウ作戦が発動され B 軍集団のカフカス侵攻戦、A 軍集団のスターリングラード戦が続く。

東部戦線シリーズ時系列表(1941 年 6 月～43 年 1 月)

年	月	北方軍集団		中央軍集団	南方軍集団	
1941年	6/22	バ29-31 (国境)		バ12-24 (国境)	バ25-28 (国境)	
	6月前半	バ79-98 (バルト三国)		バ32-79 (ミンスク スモレンスク)	バ113-126 (南ウクライナ)	
	7月前半			バ99-112 (イエリニャ)		
	7月後半			バ127-138 (キエフ)		
	8月					バ147-150 (クリミア)
	9月					
	10月前半	フ71-72 (レニングラード)		バ151-162 (モスクワ)		フ25-28 (クリミア)
	10月後半					
	11月			タ10-103 (モスクワ)	フ28-35 (ロストフ)	
	12月					フ35-38 (クリミア)
1942年	1月	フ87-93 (ヴォルホフ)	フ73-86 (デミヤンスク)	タ104-118(セリゲル湖) タ119-132(ルジュフ) タ133-134(オリョール)	フ10-14 (ハリコフ)	
	2月		フ94-99 (デミヤンスク)			
	3月					
	4月					
	5月	フ100-102 (ヴォルホフ)			フ8-9,15-21 (ハリコフ)	フ39-54 (クリミア)
	6月前半				フ22-24 (ハリコフ)	
	7月	フ69-70 (ヴォルホフ)			フ55-68 (ロストフ)	
	8月				フ112-128 (スターリン グラード)	フ104-112 (カフカス)
	9月					
	10月					
	11月					
	12月					
1943年	1月	ツ71-86 (レニングラード)	ツ96-98 (デミヤンスク)	ツ87-97 (ルジュフ)		

バ：バルバロッサ作戦， タ：タイフーン作戦

フ：ブラウ作戦， ツ：ツィタデル作戦（一部のみ表記）

なおブラウ作戦が行われている頃の北方・中央軍集団戦区については特筆すべきほどの戦線の動きがなかった（クリミア戦を終えたマンシュタインの第11軍がレニングラード東のヴォルホフに投入されるなど一応戦闘は行われている）ためか本巻では触れられていない。次巻『ツィタデレ作戦』にて1942年夏のルジュフ（中央軍集団の戦線北翼）の戦いが軽く触れられている程度である。

